

平成 27 年 第 1 回 日本救急医学会女性医師参画推進特別委員会 議事録

日時：平成 27 年 1 月 22 日（木）10：00～12：00

場所：日本救急医学会事務所

出席：

委員長：畝本 恭子

委員：阿南 英明（新）

岡田 昌彦

木田 真紀

木村 昭夫

角 由佳

長谷 敦子（新）

並木 淳（新）

並木 みずほ（新）

本多 ゆみえ

矢口 有乃

担当理事：田中 裕

欠席 なし

議事次第

1. 新委員・2期委員の自己紹介、田中担当理事より学会からの期待度についてコメント
2. 前回議事録の確認：なお、平成 26 年の委員会議事、活動記録については学会 HP の女性医師参画委員会のバナーから閲覧可能
  
3. ホームページ立ち上げについて
  - 1) Website の立ち上げについては、学会事務局の佐藤様にお願いしている。
  - 2) 内容についての検討が本日の議題
  - 3) 前回委員会で 6 項目の掲載内容候補と担当委員を暫定的に決めた
    - ① 医師の働きやすさに取り組んでいる施設のリストと各施設のサイトへのリンク
    - ② 女性救急医のロールモデル紹介（過去の女性ラウンジでのスライドを公表が差し支えない内容に revise していただく、コアメンバーにも参加をお願いする）
    - ③ 女性医師、(女子) 医学生などの ML なども活用し、そこでよく利用されているサイトや、講演、イベントなどの情報を集める

- ④ e-レジなどの講演依頼があればその内容の案内やリンク
- ⑤ 新専門医制度のプログラムや規定などとのリンク
- ⑥ その他

#### 4) 委員より

- ① フェースブックも利用も検討。学生などに広がりやすい。但しコメントの内容を確認してコントロールする専任の人がいないと難しい。気軽に書き込みをすると一般の人には受け入れられない表現も少なからずあり、問題となる
- ② レジナビ、e-レジなどの出展は高額なので難しいが、この HP の案内をチラシにして各ブース（大きな施設はだいたい出している）に置くのは宣伝になる。
- ③ 施設紹介について
  - ・ 施設紹介はリクルートの性格をもつようにならないか？容認されるか？
  - ・ 昨年のラウンジで、女性医師側はどんな施設があるか知りたい、施設管理者はシフト制は支援などのシステムを作ってもその施設のサイトをみてもらうなど情報提供の場がなければ伝わらない、と双方から要望があった。
  - ・ 働きやすい施設に必要な要件をボックスにして、条件を入れると検索できる、という形式はどうか？
  - ・ 取組みが遅れている施設にとっても参考になる
  - ・ いろいろな情報を取り込まなくてはならない。どのように収集するか
- ④ ロールモデルについて
  - ・ 女性だけでなく、イクメン経験のある医師などの紹介もいれては。
  - ・ 女性医師モデルのいくつかのパターンについての意見
    1. キャリアアップを目指す人は、結婚・育児に係らず睡眠時間を削っても邁進する。そこまでではなく、一般的に実現可能と思われるパターンを呈示する。
    2. よく雑誌等でクローズアップされる人は、キャリアも素晴らしく家事育児も上手にこなしているような例。学生、若い医師はそれにあこがれる。
    3. がむしゃらでなく、普通に働いていける救急医を呈示。年をとっても続けていける救急のお医者さん。これも大切。転科する人の中には、女性・男性の別なく、一生続けられないという印象を持っている。
- ⑤ そもそも、女性医師、の問題は、男性の意識を変えなくてはならない。我々（委員）世代の概念を覆さないと始まらない。子育ては女性、という前提にたっているのはおかしい。
- ⑥ 男性が目にする HP にしなければ変わらない。女性が働けなくなると男性にシワ寄せがくることは自明の理なので、それに気付かない男性に危機感を持ってもらう。また、最近では子育て・家事参加したい、という若い男性も少なくない。

そのような人もアクセスするような HP にする。

- ⑦ 男性だけでなく、家庭などの制約がなく仕事に打ち込んでいる女性医師に対する配慮も必要。子育て中などの‘甘え’が前面に出ると、その数年間の働き方を受け入れてもらうことはできなくなる。(HP 上のアプローチにも配慮)
- ⑧ 女性に限らず、ふつうの人が年をとってもやめなくてよい救急医の働き方を示すことが大切。男性でも結婚や子供の誕生などで、救急医を続けることに悩みをかかえる人もいる
- ⑨ 田中理事) 現在、HP の予算申請を考えているが、委員会の方向性を示す副題を付けたい。 例：女も男も一生救急医！など
- ⑩ 新専門医・指導医制度委員会で、基幹病院に女性の採用人数や女性比率、指導医に女性をおく、などの基準を義務付ける、というのも一案。女性が多い皮膚科、眼科等に先駆けて、「救急医学」は女性登用を実践することをHP 上でアピールする。
- ⑪ 救急医の不満を集めるコーナーをつくり (掲載可否は、委員会で吟味。)、解決策を募るなど

#### 4. コアメンバーへの働きかけについて

##### 1) 現状：

- 現在、学会ラウンジのアンケートで、コアメンバーになってもよい、という方のみを登録したメーリングリストを作成し、情報提供している。当面は、情報提供のみで、双方向性にはしない。

##### 2) 今後のコアメンバーの募集

- 女性医師… (今後、男女参画推進委員会) のページで、コアメンバーの募集を行う
  - ① 必要事項を記入して、事務局に送っていただく
  - ② 日本救急医学会会員に限る。(会員番号を記入)

##### 3) 今後の活動:1年に一度くらい、拡大委員会というか、コアメンバーが一堂に会する会、などを開く、など、全体の活動も考える。

#### 5. 新専門医制度における更新のための e-learning について

- 現在、機構と話し合っているが、更新には、いろいろな講習会を受けることが要求されている。
- e-learning は、家庭にいる時間が長い女性医師でも、受講可能。どのような形式なら受けやすいか、専門医指導医制度委員会に提案する。

#### 6. 第 43 回総会企画について

- 1) ラウンジは、今年もおいていただく予定。
- 2) 男女共同参画委員会企画として、シンポジウム形式で
  - 企画案を早急に作成して堤会長にお送りする
  - 新専門医制度の更新情報などともからめる
  - アンケート：(HPへの施設紹介のコーナーの資料もからめ) 施設の取りくみを抽出する

#### 7. e-レジ

- 1) 今年は、昨年と企画が異なるが、講演会は行われる予定（角先生）。決まり次第現在のHPに掲載、コアメンバーのMLに流す。